

平成23・24年度

自己点検・評価報告書

九州女子短期大学

目 次

《Ⅰ 教育内容》

【教育課程について】	3
【授業内容・授業方法について】	13
【教育改善への努力について】	14

《Ⅱ 教育目標の達成度と教育の効果》

【単位認定について】	16
【授業に対する学生の満足度について】	21
【退学、休学、留年等の状況について】	22

I 教育の内容

【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程

< 子ども健康学科 >

教育課程等の概要

< 子ども健康学科 >

平成24年5月1日現在

科目区分	授業科目の名称	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実験・実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教養教育科目	第1群 (人文・社会・芸術科目)】											
	文章力をつける	○				2		○			31 (2)	
	芸術を楽しむ	○				2		○			52	
	歴史と文化	○				2		○			16	
	日本国憲法	○				2				○	156 (2)	
	暮らしと経済	○				2				○	13	
	ジェンダーと社会	○				2		○			3	
	生涯学習と社会教育	○				2		○			8	
	同和教育	○				2				○	80	
	異文化交流			○		2					H23未開講	
	第2群 (健康・自然科目)】											
	生涯スポーツ			○		1		○		○	158 (6)	
	健康の科学	○				2		○			153 (8)	
	心の科学	○				2		○			5	
	環境と人間	○				2				○	0	
	第3群 (外国語・情報科目)】											
	英語 I		○			1		○		○	158 (4)	
	英語 II		○			1		○		○	152 (4)	
	情報処理 I	○				2		○		○	159 (4)	
	情報処理 II	○				2		○		○	57 (2)	
	第4群 (キャリア支援科目)】											
	キャリアデザイン I		○			1		○			164 (14)	
	キャリアデザイン II		○			1		○			153 (14)	
キャリアデザイン III		○			1					H23未開講		
キャリアデザイン IV		○			1					H23未開講		

科目区分	授業科目の名称	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実験・実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	【基礎科目】											
	子ども学	○			2			○			161 (2)	
	児童福祉Ⅰ	○				2		○			99 (2)	
	乳幼児心理学	○				2					H23未開講	H23未開講
	発達心理学	○				2		○			89 (2)	
	乳児保育Ⅰ		○		2			○			162 (3)	
	保育原理Ⅰ	○				2		○			98	
	保育原理Ⅱ	○				2		○			32	
	社会福祉原論	○				2					H23未開講	H23未開講
	精神保健	○			2			○			161 (2)	
	子ども保健学Ⅰ							○			96	
	救急処置	○				2					H23未開講	H23未開講
	看護学Ⅰ	○				2		○			79	
	【基幹科目 発達支援領域】											
	保育者論	○				2		○			103	
	教育課程・保育計画総論	○				2		○			98	
	保育心理学演習		○			2		○			94 (2)	
	保育内容総論		○			2		○			100	
	保育内容（人間関係）		○			2					H23未開講	
	保育内容（環境）		○			2					H23未開講	
	保育内容（言葉）		○			2					H23未開講	
	保育内容（表現）		○			2		○			98 (6)	
	児童福祉Ⅱ	○				2					H23未開講	
	乳児保育Ⅱ		○			2					H23未開講	
	相談援助演習		○			2					H23未開講	
	家庭支援論	○				2					H23未開講	
	障害児保育		○			2					H23未開講	
	養護原理	○				2				○	94	
	養護内容		○			2					H23未開講	
	保育臨地実習			○		1					H23未開講	
	保育実習指導Ⅰ		○			2					H23未開講	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）		○			2					H23未開講	
	保育実習指導Ⅲ（施設）		○			2					H23未開講	
	保育所実習Ⅰ			○		2					H23未開講	
保育所実習Ⅱ			○		2					H23未開講		
施設実習Ⅰ			○		2					H23未開講		
施設実習Ⅱ			○		2					H23未開講		
総合演習		○			2					H23未開講		
保育実践演習		○			2					H23未開講		

科目区分	授業科目の名称	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考		
		講義	演習	実験・実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任				
専門教育科目	国語科教育概論(書写を含む。)	○				2			○			77 (2)		
	算数科教育概論	○				2			○			79 (2)		
	生活科教育概論	○				2			○			7		
	音楽(器楽)Ⅰ		○			2			○		○	128 (18)		
	音楽(器楽)Ⅱ		○			2			○		○	57 (18)		
	音楽(声楽)		○			2					○	89 (2)		
	図画工作		○			2			○			92 (2)		
	【基幹科目 健康支援領域】													
	子どもの食と栄養		○			2			○			101 (2)		
	子ども保健学Ⅱ	○				2						H23未開講		
	子ども保健学演習		○			1						H23未開講		
	幼児体育		○			2			○			47 (2)		
	体育		○			2			○			95 (2)		
	保育内容(健康)		○			2						H23未開講		
	保育相談論(カウンセリングを含む。)	○				2						H23未開講		
	学校保健Ⅰ	○				2			○			80 (2)		
	学校保健Ⅱ	○				2			○			76 (2)		
	学校保健実習			○		1			○			76 (2)		
	養護概説Ⅰ	○				2			○			79 (2)		
	養護概説Ⅱ	○				2			○			76 (2)		
	ハルスカウンセリング*	○				2						H23未開講		
	ハルスカウンセリング演習		○			1						H23未開講		
	衛生学	○				2					○	79		
	公衆衛生学(予防医学を含む。)	○				2						H23未開講		
	栄養学(食品学を含む。)	○				2						H23未開講		
	生理・解剖学	○				2			○			79 (2)		
	微生物学(免疫学を含む。)	○				2			○			74		
	薬理学Ⅰ	○				2			○			74 (2)		
	薬理学Ⅱ	○				2						H23未開講		
	看護学Ⅱ	○				2						H23未開講		
	看護学Ⅲ	○				2						H23未開講		
	看護学実習Ⅰ			○		1			○		○	76 (4)		
	看護学実習Ⅱ			○		1						H23未開講		
	【基幹科目 健康支援領域】													
臨床実習Ⅰ			○		2						H23未開講			
臨床実習Ⅱ			○		1						H23未開講			
医療秘書学	○				2					○	52			
臨床医学	○				2						H23未開講			
診療報酬請求実務	○				2						H23未開講			
医療・社会保障論	○				2						H23未開講			
医療情報学	○				2						H23未開講			

科目 区分	授業科目の名称	授業形態			単位数			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実験・ 実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門 教育 科目	教職関連科目】											
	教職概論（幼稚園）	○				2		○			79	
	教育原論（幼稚園）	○				2		○			97	
	教育心理学（幼稚園）	○				2		○			74	
	教育行政学（幼稚園）	○				2				○	78	
	教育方法・技術論	○				2					H23未開講	
	教職実践演習（幼稚園）		○			2					H23未開講	
	事前事後指導（幼稚園）	○				1					H23未開講	
	教育実習Ⅰ			○		2					H23未開講	
	教育実習Ⅱ			○		2					H23未開講	
	教職概論（養護教諭）	○				2		○			79	
	教育原論（養護教諭）	○				2		○			79	
	教育心理学（養護教諭）	○				2		○			76	
	教育行政学（養護教諭）	○				2				○	75	
	教育課程論	○				2					H23未開講	
	教科外教育の研究	○				2					H23未開講	
	教育方法学	○				2		○			76	
	生徒・進路指導論	○				2					H23未開講	
	教育相談論	○				2					H23未開講	
	教職実践演習（養護教諭）		○			2					H23未開講	
事前事後指導（養護教諭）	○				1					H23未開講		
養護実習			○		3					H23未開講		

【専攻科養護教育学専攻】

教育課程等の概要

<専攻科養護教育学専攻>

平成24年5月1日現在

科目区分	授業科目の名称	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実験・ 実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任			
専門的科目	【専門的科目】												
	健康科学特論	○				2			○			10	
	機能形態学特論	○					2		○			20	
	生化学特論	○			2					○		20	
	栄養学特論	○				2				○		20	
	衛生学特論	○				2				○		20	
	公衆衛生・予防医学特論	○				2				○		20	
	臨床心理学特論	○					2			○		8	
	学校保健学特論	○			2				○			20	
	養護教育実践学特論	○					2		○			20	
	微生物学特論	○					2			○		10	
	医科学特別実習			○	1				○	○		10	
	薬理学特論	○				2			○			20	
	看護学特論Ⅰ	○				2			○			20	
	看護学特論Ⅱ	○				2			○			20	
	教育思想特論	○					2		○			20	
	障害児教育	○				2				○		20	
	教育方法学特論	○					2			○		10	
	教科外教育特論	○					2		○			10	
	比較教育学特論	○					2			○		10	
	生涯教育学特論	○					2			○		10	
	音楽教育学特別演習		○				1		○	○		20	
	養護共用特別演習		○			1			○			20	
修了研究Ⅰ		○			2			○	○		18 (8)		
修了研究Ⅱ		○			6			○	○		2 (8)		
専門関連科目	【専門関連科目】												
	情報処理(応用)研究	○				2		○			20		
	情報処理演習		○			1		○			20		
教職に関する専門教育科目	【教職に関する専門教育科目】												
	教職特論	○				2				○	20		
	教育基礎特論	○				2		○			20		
	教育課程特論	○				2		○			20		
	生徒指導特論	○				2		○			10		
	教育相談特論	○				2		○			10		
	総合特別演習		○			2				○	10		
	養護特別実習			○		3		○			11		
	教職実践特別演習(養護教諭)		○			2		○			10		

(2)教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教育の配置等

1)教養教育の取組み

<子ども健康学科>

教養教育科目は、第1群（人文・社会・芸術科目）、第2群（健康・自然科目）、第3群（外国語・情報科目）、第4群（キャリア支援科目）の4群から構成され、各分野に亘ってバランスよく配置している。第1群から2単位以上、第2群から3単位以上、第3群から2単位以上、第4群から4単位の履修を定め、合計で11単位以上を卒業必修にして、幅広い教養を身につけることができるように配慮している。特に保育者・教育者の資質として求められる他者との協調性、自己理解力、的確な判断力を養い、卒業後、社会人として自立できる力を身につけるために、キャリア支援科目「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「キャリアデザインⅢ」「キャリアデザインⅣ」を配置している。そのため、入学時から卒業までに至るまで一貫したキャリア教育を必修科目として展開している。

<専攻科養護教育学専攻>

本専攻においては、基礎教育、倫理性を培う教育は、すでに短期大学で修得した教養教育科目などにより充足されていると位置づけている。そのため、基礎となる学科（養護教育科）の教育と本専攻の専門的科目及び関連科目との連携が取れるように配慮した観点からの改善に取り組んでいる。

2)専門教育の内容

<子ども健康学科>

専門教育科目は、幼稚園教諭二種免許又は養護教諭二種免許及び保育士資格の取得が可能な教育課程になっている。本学科では「基礎科目」「基幹科目」「教職関連科目」に区分し、乳幼児から青年期に至る子どもの成長・発達の科学的理解及びその理解に基づく心身の健やかな成長・発達を支援する専門的知識・技術を修得する科目を配置している。なお、「基礎科目」は、「子ども」(子どもの理解と発達支援に関する科目)、「保育」(保育の実践的知識・技能に関する科目)、「健康」(心身の健康維持増進に関する科目)の学科の基礎となる知識・技術の修得のための科目を配置している。そして、本学科の特色を表す「基幹科目」は発達支援領域と健康支援領域の2領域により構成し、両領域の基本的な知識・技能を修得するように科目を配置している。また、「教職関連科目」は、教員免許及び保育士資格取得のために必要とされる科目を配置している。

<専攻科養護教育学専攻>

本専攻の教育の目的・目標である「心身の健全な育成を支援する人材の育成」を目指した教育課程を編成している。その構成は、専門科目、関連科目及び専攻外科目である。これらの科目は、短期大学設置基準第5条の規程の趣旨を踏まえて設定され、養護教諭一種免許課程を運営するための重要な柱である。

単位修得については、大学評価・学位授与機構で学位を取得する制度の特性上、

かなり厳密な自己管理が求められる。そのために、学士の取得にあたっては、既に短期大学で修得している62単位への積み上げ方式となっていること、学士の種別ごとに履修する専門科目、関連科目が異なっていることなどのさまざまな条件と制約がある。その支援として、履修方法に混乱を生じさせないよう、科として履修モデルを呈示したり、個別に履修指導を実施したりしてきめ細やかな配慮をしている。

3) 授業形態のバランス

<子ども健康学科>

卒業後のそれぞれの専門領域を生かして実社会で活躍できるように、乳幼児から青年期までの教育に携わるために必要な専門的素養と基礎的能力を培い、即戦力となる人材の育成を目的としている。そのため、講義形態による基礎論や概論の学修とともに、演習・実験実習形式等による体験的な授業形態の科目を42科目開設して、実践力の育成を図っている。とくに、保育実習及び教育実習を実施しているため、保育施設や教育現場で対処できる能力の育成を目指して、授業形態のバランスを図るように工夫して取り組んでいる。

<専攻科養護教育学専攻>

すでに基礎となる学科における学修の積み上げとなり総合的な能力の伸展を図るために、講義・演習、実験実習等、授業形態の偏りなく配置するように工夫してきている。

授 業 形 態

(平成24年5月1日現在)

	講義科目	演習科目	実験実習科目	合計
子ども健康学科	55 科目 (108)	29 科目 (57)	13 科目 (22)	97 科目 (187)
専攻科 養護教育学専攻	25 科目 (50)	7 科目 (15)	2 科目 (4)	34 科目 (70)

() 内の数字は単位数

4) 必修・選択のバランス

<子ども健康学科>

卒業要件単位は62単位以上である。その内訳は、教養教育科目は11単位以上、専門教育科目は28単位以上であり、必修科目は学生にとって過重な負担になることはなく、また選択科目も適切に配置されている。しかし、本学科では、1免許(幼稚園教諭二種免許、養護教諭二種免許のいずれか)と1資格(保育士資格)を取得することが可能としている。したがって、同時に1免許1資格を取得する場合、そのための免許・資格の必修科目を選択することから、教養教育科目及び専門教育科目に開設されている選択科目を選択する範囲が狭められる結果

となっている。

<専攻科養護教育学専攻>

34科目中、基礎となる学科（養護教育科）の学修の積み上げ、展開となるように、このうち10科目を必修科目としており、ほぼ適正なバランスである。

5)専任教員の配置

開設授業科目における専兼比率

平成24年5月1日現在

学科			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
子ども健康学科	専門教育	専任担当科目数 (A)	3.0	0.0	37.5	
		兼任担当科目数 (B)	0.0	0.0	7.5	
		専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	100.0	—	83.3	
	教養教育	専任担当科目数 (A)	2.0	0.0	11.5	
		兼任担当科目数 (B)	0.0	0.0	6.5	
		専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	100.0	—	63.9	
専攻科	養護教育学専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	8.0	0.0	20.0
			兼任担当科目数 (B)	2.0	0.0	14.0
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	61.5	—	58.8
	教養教育	専任担当科目数 (A)	0.0	0.0	0.0	
		兼任担当科目数 (B)	0.0	0.0	0.0	
		専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	—	—	—	

<子ども健康学科>

専任教員は、教授8名(内特任3名)、准教授2名、及び講師6名の合計16名となっている。なお、実験実習などを補助している助手は1名である。

<専攻科養護教育学専攻>

本専攻の専任教員は、短期大学設置基準上講師以上の教員が3名（うち3名以上教授）必要とされているが、教授5名（うち特任2名）、准教授2名（うち特任1名）及び講師2名の合計9名となっている。なお、実験実習などを補助している助手は1名である。

(3)当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

1)当該教育課程を履修することにより取得可能な免許・資格

学科・専攻	取得可能な免許・資格
子ども健康学科	幼稚園教諭二種免許、 養護教諭二種免許、保育士
専攻科養護教育学専攻	養護教諭一種免許

2)教育課程によらない取得可能な免許・資格等

学科・専攻	取得可能な免許・資格	認定団体	履修方法
子ども健康学科	医療管理秘書士	大学・短大医療教育協会	能力検定試験合格
	病歴記録管理士	大学・短大医療教育協会	能力検定試験合格
	ピアヘルパー	NPO 日本教育カウンセラー	資格試験合格
	薬学検定（1～4級）	日本セルフケア支援薬剤師センター	検定試験合格
専攻科 養護教育学専攻	ピアヘルパー	NPO 日本教育カウンセラー	資格試験合格
	薬学検定（1～4級）	日本セルフケア支援薬剤師センター	検定試験合格

(4)卒業要件単位数及びその他の卒業要件

子ども健康学科及び専攻科の卒業及び修了要件単位数は、下表のとおりである。
また、その他の卒業要件としては、2ヶ年の在学期間を明記している。

子ども健康学科の卒業要件単位数

子ども健康学科				
教養教育 科目	第1群：人文・社会・芸術科目	2単位以上	11単位 以上	62単位 以上
	第2群：健康・自然科目	3単位以上		
	第3群：外国語・情報科目	2単位以上		
	第4群：キャリア支援科目	4単位		
専門教育 科目	基礎科目	8単位以上	28単位 以上	
	基幹科目 （発達支援領域） （健康支援領域）	主たる領域から 20単位以上		
	教職関連科目			
合計単位数		62単位以上		

専攻科養護教育科学専攻の修了要件

62単位以上

専攻科に2年以上在学し、必修を含めて62単位以上を修得した者に対し修了証書を授与する。

これらの卒業要件の学生への周知は学生便覧への明記、卒業要件単位数については「教務ガイダンス」に明記するとともに、学生へのガイダンスの際に説明している。また、学納金の納付については、履修規程において試験の受験資格、進級、単位認定の条件として明記している。

(5)学科等の現状における教育課程の見直し・改善

<子ども健康学科>

本学科は、平成23（2011）年度の養護教育科、初等教育科からの改組による2つの領域を有し、その選択により2つの教員免許（幼稚園教諭二種・養護教諭二種）のいずれかと1つの国家資格（保育士資格）の同時取得を可能としている。本学科は、健康支援領域において養護教諭養成の教育課程、発達支援領域において幼稚園教諭養成課程、そして両領域における保育士養成の教育課程という3つの軸から構成される学科として、特色ある教育課程を有している。これは、昨今の少子化等の影響の中で伸び悩む教員採用数を背景に、養護教育科における学生進路の養護教諭と医療・福祉系の二極化傾向に即応し、とくに医療・福祉系の進路の幅を拡充することにもつながるよう工夫されている。なお、発達支援領域の前身となる初等教育科が有していた小学校教諭養成の教育課程は、平成22（2010）年度から、九州女子大学人間科学部に発展的統合されている。また、平成24（2012）年度には完成年度を迎えた平成25（2013）年度以降の見直し・改善では、2教諭免許・1国家資格の教育課程を有する本学科の独自科目となる「子ども学」を「子ども健康学」とし、さらに「卒業研究」を設けて、本学科の独自性・専門性を充実・拡充していくように教育課程の改善に向け取り組んでいる。

<専攻科養護教育学専攻>

専攻科では、教育課程における基礎教育及び倫理性を培う教育は、既に短期大学で習得した教養教育科目等により満たされていると位置づけている。さらに、今後は、平成25（2013）年度以降は専攻科子ども健康学専攻として、平成23（2011）年度改組に伴い基礎となる学科となった子ども健康学科の健康支援領域、並びに発達支援領域の教育と本専攻の専門的科目及び関連科目がとれるように配慮した改善を進めて行くことが計画されている。そのため「修了研究Ⅰ」「修了研究Ⅱ」「修了研究Ⅲ」では、指導教員に子ども健康学科のすべての教員を配置し、学生の希望する基礎となる学科（子ども健康学科）での関心領域における学修を生かした専門性を高められるよう配慮している。なお、教員採用数が昨今の少子化等の影響中で悩むところではあるが、専門性を生かした社会人としての活躍の場の拡充に向けて、平成25（2013）年度以降では、キャリア・デザインに関する一貫した指導を計画し、

そのための科目「キャリアデザイン特別演習Ⅰ」「キャリアデザイン特別演習Ⅱ」の開講を計画予定している。

【授業内容・教育方法について】

(1)シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等

シラバスは短期大学全体でまとめられ、年度初めのオリエンテーションで配布し、学生への授業履修指導及び授業内容の説明に役立てている。シラバスの具体的項目である「授業概要」「到達目標」「教科書・参考書」「授業計画」及び「評価方法」等では、各授業担当者による説明が記載されている。授業では、初回に担当教員がシラバスの概要説明を行い、学生に授業内容を把握させる工夫をしている。シラバスの記述は、科目担当教員により、学生の興味・関心とのつながりがわかりやすく記述されるよう工夫されてきているが、幅広い分野を履修する学生にとっては専門内容の表現などの説明などが期待されることも検討される。また、シラバスの利用については、科目履修の際や初回の授業時には学生の積極的な活用が見られるが、毎回の授業での活用では必ずしも十分とはいえない。したがって、シラバス作成で、前年度の授業実態や題材の適正性を考慮し、学生の受講態度や意欲、評価試験の状況などを総合的に検討して修正する努力を、今後も重ねられていくことが望まれる。また、併せて、社会のニーズや変化を反映させるよう留意しながら作成することが期待される。加えて、平成22（2010）年度から改善に取り組んでいるチェック体制の強化、及び携帯しやすいサイズへの変更により、学生にとって扱いやすいシラバスへと改善されてきている。とくに専攻科養護教育学専攻では、一学年20名定員の人数特性を生かした、グループ討議や相互発表、小論文など、一人一人が意欲を持ち幅広い考え方ができるような工夫がされてきている。

(2)学生の履修態度や学業への意欲等についての現状

<子ども健康学科>

本学科の学生の履修態度、学業への意欲については、おおむね良好であると判断している。しかし、受講者が多い授業、また講義形式の教養教育科目、専門教育科目など一部、履修態度、学業への意欲について問題が見られる学生がいる。しかし、このような状況については、座席配置の改善、学年アワー等での学生への注意喚起、担任教員による個別指導等、迅速な指導に取り組んできている。~~しかし、~~こうした問題は、昨今の時代的背景とも関連しており、少なくとも卒業時に各自が自立した社会人としての基礎能力習得が望まれる。そのため学生へのキャリア教育の充実が不可欠であると考え、科目「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「キャリアデザインⅢ」「キャリアデザインⅣ」の開講によるキャリア形成の一貫教育の実践のほか、学習成果の発表の場（各種実習報告会、卒業研究等（ゼミ）の報告会、ほか）を工夫して、自立した社会人の養成・指導に取り組んできている。

＜専攻科養護教育学専攻＞

受講生の出席状況はおおむね良好である。なお、短期大学における学習の流れが中断されず専門性を高められるように、オリエンテーションでは見通しを持った学習を指導し、また学習意欲の喚起していくことを考えている。さらに、学年ごとに採用試験に関連した授業内容を採り入れることによって、学習意欲の喚起が図られ、学習効果が高められたと思われる。

【教育改善への努力について】

(1)学生による授業評価

ほとんど全ての授業に対して、中間アンケートを実施している。その結果を受け、授業担当者が後半の授業の改善を行い、質問事項などについては解説を行うように心がけている。中間アンケートに関しては当該授業担当者に任されており、未公開である。

また、おおむね14週、15週の授業内で全ての授業に対して無記名の選択・記述形式併用型のアンケート（「授業フィードバック・アンケート」）を実施している。アンケートの結果は事務局で一括して集計し、授業改善の一助となるよう、各授業に関する集計結果と統計的処理に基づく重点改善事項に関する資料を当該授業担当者に手渡している。授業担当者は、その資料を精査し、それに対する自己評価及び今後の改善策等を所見としてまとめ、提出している。集計結果並びに所見票は図書館で公開している。

(2)短期大学全体の授業改善(ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動等)への組織的な取り組み

1)学生による授業評価の概要

学生による各授業に対する評価、自分自身の取り組みに関する評価については、おおむね良好である。しかし、一部には、教育内容の理解の難しさに関するものや、授業方法に対して改善を求めるもの等が散見される。

2)授業改善への組織的な取り組み(FD活動等)

学長、短期大学部長、大学学部長、共通教育機構長、教務部長及び各学科・科の教員からなるFD推進委員会を設置し、この委員会においてFD活動の企画・運営を行っている。近年の具体的な活動内容は、過去の授業アンケート結果の分析、授業アンケートの質問項目・実施方法・公開方法等の検討、委員による授業参観の実施、教員向けFDハンドブックの作成等である。

(3)担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制

＜子ども健康学科＞

これまでも教員間の意思の疎通や協力体制を推進するために、定例の学科会議及び直接面談の対話を重視している。しかし、直接対話ができない場合にも、メール等のツールを効果的に活用し、迅速な情報伝達に努めている。

また、個々の教員の授業内容や教育方法の工夫や改善は、将来につながるような教員採用試験、実習等の関連性を示すなど、学生の意欲を高め、それを持続させる

ように継続されている。したがって、各教員による授業の工夫は積み重ねられてきているが、教員間での連携が十分に図れていない面もあるため、講義内容が重複したり連続していなかったりする場合がある。短期大学という修業年限が二年と短い本学科においては、この連携を図りながら、学修の定着を図る必要がある。そのためには、関連科目を担当する教員間で事前に打ち合わせをするなど、重複や繰り返しを避け、継続や発展へとつながるような系統立てた授業内容を工夫する取組みが必要である。

<専攻科養護教育学専攻>

授業について専任、兼任教員を含め意思疎通や協力体制は、検討の余地がある。ただ、学修成果である学士論文作成に係る研究については、発表会を複数回設けるなど、短期大学教員が出席するように努め、工夫を重ねてきている。

II 教育目標の達成度と教育の効果

【単位認定について】

(1) 単位認定の方法と評価の実態

子ども健康学科単位認定の状況表

<子ども健康学科>

平成24年5月1日現在

科目区分	授業科目の名称	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	
教養教育科目	第1群 (人文・社会・芸術科目)】											
	文章力をつける	講義	31	レポート	100.0	—	100.0	77.4	19.4	3.2		
	芸術を楽しむ	講義	52	試験・小レポート・出席	100.0	—	100.0	57.7	26.9	15.4		
	歴史と文化	講義	16	レポート・出席	100.0	—	100.0	62.5	25.0	12.5		
	日本国憲法	講義	156	試験・出席	88.5	7.1	95.6	18.6	41.0	35.9	4.5	
	暮らしと経済	講義	13	試験・出席	46.2	—	46.2	30.8		15.4	53.8	
	ジェンダーと社会	講義	3	レポート・出席	100.0	—	100.0		66.7	33.3		
	生涯学習と社会教育	講義	8	試験・課題・出席	100.0	—	100.0	25.0	37.5	37.5		
	同和教育	講義	80	試験・レポート・出席	95.0	—	95.0	67.5	23.8	3.8	5.0	
	異文化交流	実習	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	第2群 (健康・自然科目)】											
	生涯スポーツ	実習	158	試験・レポート・実技	98.1	—	98.1	70.9	22.8	4.4	1.9	
	健康の科学	講義	153	試験・出席	79.1	17.6	96.7	44.4	18.3	34.0	3.3	
	心の科学	講義	5	試験・課題	100.0	—	100.0	80.0		20.0		
	環境と人間	講義	0	試験	—	—	—	—	—	—	—	—
	第3群 (外国語・情報科目)】											
	英語Ⅰ	演習	158	試験・出席・小テスト	91.1	6.3	97.4	55.1	14.6	27.8	2.5	
	英語Ⅱ	演習	152	試験・出席	79.6	9.2	88.8	45.4	19.1	24.3	11.2	
	情報処理Ⅰ	講義	159	試験・レポート	98.1	—	98.1	79.9	14.5	3.8	1.9	
	情報処理Ⅱ	講義	57	レポート・出席	100.0	—	100.0	70.2	24.6	5.3		
第4群 (キャリア支援科目)】												
キャリアデザインⅠ	演習	164	出席・レポート	97.6	—	97.6	74.4	13.4	9.8	2.4		
キャリアデザインⅡ	演習	153	出席・レポート	100.0	—	100.0	76.5	17.6	5.9			
キャリアデザインⅢ	演習	—	出席・レポート	—	—	—	—	—	—	—	—	
キャリアデザインⅣ	演習	—	出席・レポート	—	—	—	—	—	—	—	—	
専門教育科目	基礎科目】											
	子ども学	講義	161	出席・レポート	96.3	1.9	98.2	82.0	11.2	5.0	1.9	
	児童福祉Ⅰ	講義	99	試験・出席	75.8	22.2	98.0	31.3	37.4	29.3	2.0	
	乳幼児心理学	講義	—	試験・課題・レポート	—	—	—	—	—	—	—	—
	発達心理学	講義	89	試験・小レポート	82.0	15.7	97.7	31.5	34.8	31.5	2.2	
	乳児保育Ⅰ	演習	162	試験・レポート・提出物	92.6	1.9	94.5	59.3	24.7	10.5	5.6	
	保育原理Ⅰ	講義	98	試験・出席	95.9	1.0	96.9	54.1	30.6	12.2	3.1	
	保育原理Ⅱ	講義	32	試験・レポート・出席	100.0	—	100.0	87.5	12.5			
	社会福祉原論	講義	—	試験・レポート・出席	—	—	—	—	—	—	—	—
	精神保健	講義	161	試験・出席・レポート・課題	93.8	4.3	98.1	62.7	23.0	12.4	1.9	
	子ども保健学Ⅰ	講義	96	試験・出席	83.3	13.5	96.8	40.6	21.9	34.4	3.1	
	救急処置	講義	—	試験・出席	—	—	—	—	—	—	—	—
	看護学Ⅰ	講義	79	試験・出席	93.7	2.5	96.2	72.2	11.4	12.7	3.8	

科目区分	授業科目の名称	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門教育科目	【基幹科目 発達支援領域】										
	保育者論	講義	103	試験・出席・小レポート	68.9	14.6	83.5	30.1	12.6	40.8	16.5
	教育課程・保育計画総論	講義	98	試験・出席	89.8	6.1	95.9	52.0	19.4	24.5	4.1
	保育心理学演習	演習	94	試験・レポート・課題	96.8	2.1	98.9	51.1	39.4	8.5	1.1
	保育内容総論	演習	100	試験・出席	94.0	4.0	98.0	51.0	22.0	25.0	2.0
	保育内容（人間関係）	演習	—	試験・出席・発表	—	—	—	—	—	—	—
	保育内容（環境）	演習	—	試験・レポート・出席	—	—	—	—	—	—	—
	保育内容（言葉）	演習	—	試験・レポート・提出物	—	—	—	—	—	—	—
	保育内容（表現）	演習	98	試験・出席・演習	100.0	—	100.0	78.6	14.3	7.1	
	児童福祉Ⅱ	講義	—	試験・レポート・出席	—	—	—	—	—	—	—
	乳児保育Ⅱ	演習	—	試験・発表・レポート	—	—	—	—	—	—	—
	相談援助演習	演習	—	試験・課題・レポート	—	—	—	—	—	—	—
	家庭支援論	講義	—	試験・課題・レポート	—	—	—	—	—	—	—
	障害児保育	演習	—	試験・出席・レポート	—	—	—	—	—	—	—
	養護原理	講義	94	試験・出席・レポート	72.3	18.1	90.4	18.1	31.9	40.4	9.6
	養護内容	演習	—	試験・レポート	—	—	—	—	—	—	—
	保育臨地実習	実習	—	実習・レポート	—	—	—	—	—	—	—
	保育実習指導Ⅰ	演習	—	出席・課題	—	—	—	—	—	—	—
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習	—	出席・課題	—	—	—	—	—	—	—
	保育実習指導Ⅲ（施設）	演習	—	出席・レポート・提出物	—	—	—	—	—	—	—
	保育所実習Ⅰ	実習	—	実習	—	—	—	—	—	—	—
	保育所実習Ⅱ	実習	—	実習	—	—	—	—	—	—	—
	施設実習Ⅰ	実習	—	実習	—	—	—	—	—	—	—
	施設実習Ⅱ	実習	—	実習	—	—	—	—	—	—	—
	総合演習	演習	—	レポート・発表・出席	—	—	—	—	—	—	—
	保育実践演習	演習	—	出席・発表・レポート	—	—	—	—	—	—	—
	国語科教育概論（書写を含む。）	講義	77	試験・出席・提出物	93.5	5.2	98.7	46.8	23.4	28.6	1.3
	算数科教育概論	講義	79	試験・出席・レポート	100.0	—	100.0	54.4	31.7	13.9	
	生活科教育概論	講義	7	試験・出席・レポート	100.0	—	100.0	100.0			
	音楽（器楽）Ⅰ	演習	128	試験・出席	67.2	—	67.2	16.4	41.4	9.4	32.8
	音楽（器楽）Ⅱ	演習	57	試験・出席	98.2	—	98.2	38.6	52.6	7.0	1.8
	音楽（声楽）	演習	89	試験・出席	98.9	1.1	100.0	25.9	43.8	30.3	
	図画工作	演習	92	作品提出・スケッチ・レポート	100.0	—	100.0	50.0	42.4	7.6	

科目区分	授業科目の名称	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	
専門 教育 科目	【基幹科目 健康支援領域】											
	子どもの食と栄養	演習	101	試験・レポ・提出物	99.0	1.0	100.0	62.4	29.7	7.9		
	子ども保健学Ⅱ	講義	—	試験・レポート	—	—	—	—	—	—	—	—
	子ども保健学演習	演習	—	試験・出席・実習	—	—	—	—	—	—	—	—
	幼児体育	演習	47	出席・課題・発表	100.0	—	100.0	95.8	2.1	2.1		
	体育	演習	95	試験・課題・出席	100.0	—	100.0	75.8	17.9	6.3		
	保育内容（健康）	演習	—	試験・出席・レポ	—	—	—	—	—	—	—	—
	保育相談論(カウンセリングを含む。)	講義	—	試験・レポ・提出物	—	—	—	—	—	—	—	—
	学校保健Ⅰ	講義	80	試験・レポ	88.8	5.0	93.8	47.5	25.0	21.3	6.3	
	学校保健Ⅱ	講義	76	試験・レポ	96.1	2.6	98.7	77.6	9.2	11.9	1.3	
	学校保健実習	実習	76	演習・レポ・出席・発表	100.0	—	100.0	81.6	17.1	1.3		
	養護概説Ⅰ	講義	79	定試	100.0	—	100.0	10.1	77.2	12.7		
	養護概説Ⅱ	講義	76	定試	100.0	—	100.0	69.7	23.7	6.6		
	ヘルスカウンセリング	講義	—	試験・出席・レポ	—	—	—	—	—	—	—	—
	ヘルスカウンセリング演習	演習	—	出席・レポ・作品提出	—	—	—	—	—	—	—	—
	衛生学	講義	79	試験	89.9	8.9	98.8	54.4	17.7	24.1	3.8	
	公衆衛生学（予防医学を含む。)	講義	—	試験	—	—	—	—	—	—	—	—
	栄養学（食品学を含む。)	講義	—	試験・出席	—	—	—	—	—	—	—	—
	生理・解剖学	講義	79	試験・出席・レポ	91.1	2.5	93.6	45.6	31.6	16.5	6.3	
	微生物学（免疫学を含む。)	講義	74	試験	67.6	27.0	94.6	29.7	24.3	40.6	5.4	
	薬理学Ⅰ	講義	74	試験・出席・レポ	98.6	1.4	100.0	35.1	20.3	44.6		
	薬理学Ⅱ	講義	—	試験・レポ・出席	—	—	—	—	—	—	—	—
	看護学Ⅱ	講義	—	試験・レポート	—	—	—	—	—	—	—	—
	看護学Ⅲ	講義	—	試験・小テスト	—	—	—	—	—	—	—	—
	看護学実習Ⅰ	実習	76	レポート	100.0	—	100.0	77.6	14.5	7.9		
	看護学実習Ⅱ	実習	—	レポ・出席・技術試験	—	—	—	—	—	—	—	—
	【基幹科目 健康支援領域】											
	臨床実習Ⅰ	実習	—	実習レポ・発表	—	—	—	—	—	—	—	—
	臨床実習Ⅱ	実習	—	実習レポ・出席・発表	—	—	—	—	—	—	—	—
	医療秘書学	講義	52	試験・出席	100.0	—	100.0	48.1	30.8	21.2		
	臨床医学	講義	—	試験・出席・レポ	—	—	—	—	—	—	—	—
	診療報酬請求実務	講義	—	試験・課題・レポ・提出物	—	—	—	—	—	—	—	—
医療・社会保障論	講義	—	試験・出席	—	—	—	—	—	—	—	—	
医療情報学	講義	—	試験・出席	—	—	—	—	—	—	—	—	

科目区分	授業科目の名称	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	
専門教育科目	教職関連科目】											
	教職概論(幼稚園)	講義	79	試験	97.5	2.5	100.0	38.0	41.8	20.3		
	教育原論(幼稚園)	講義	97	試験・レポート	93.8	5.2	99.0	38.1	27.8	32.0	2.1	
	教育心理学(幼稚園)	講義	74	試験・レポート	78.4	12.2	90.6	45.9	21.6	23.0	9.5	
	教育行政学(幼稚園)	講義	78	試験・出席・レポート	100.0	—	100.0	55.1	25.6	19.2		
	教育方法・技術論	講義	—	出席・レポート・発表	—	—	—	—	—	—	—	—
	教職実践演習(幼稚園)	演習	—	出席・発表・レポート	—	—	—	—	—	—	—	—
	事前事後指導(幼稚園)	講義	—	出席・レポート・提出物	—	—	—	—	—	—	—	—
	教育実習Ⅰ	実習	—	実習	—	—	—	—	—	—	—	—
	教育実習Ⅱ	実習	—	実習	—	—	—	—	—	—	—	—
	教職概論(養護教諭)	講義	79	試験・出席	98.7	—	98.7	92.4	6.3		1.3	
	教育原論(養護教諭)	講義	79	試験	96.2	1.3	97.5	69.6	22.8	5.1	2.5	
	教育心理学(養護教諭)	講義	76	試験	75.0	19.7	94.7	21.1	22.4	51.3	5.3	
	教育行政学(養護教諭)	講義	75	試験・出席	98.7	—	98.7	77.3	20.0	1.3	1.3	
	教育課程論	講義	—	試験・出席・レポート	—	—	—	—	—	—	—	—
	教科外教育の研究	講義	—	試験・出席・レポート	—	—	—	—	—	—	—	—
	教育方法学	講義	76	試験	92.1	5.3	97.4	36.8	27.6	32.9	2.6	
	生徒・進路指導論	講義	—	試験・課題・レポート	—	—	—	—	—	—	—	—
	教育相談論	講義	—	試験・レポート	—	—	—	—	—	—	—	—
	教職実践演習(養護教諭)	演習	—	試験・出席・発表	—	—	—	—	—	—	—	—
事前事後指導(養護教諭)	講義	—	実習評価・レポート	—	—	—	—	—	—	—	—	
養護実習	実習	—	実習	—	—	—	—	—	—	—	—	

専攻科養護教育学専攻単位認定の状況表

<専攻科養護教育学専攻>

平成24年5月1日現在

科目区分	授業科目の名称	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門的科目	【専門的科目】										
	健康科学特論	講義	10	試験・レポ・出席	100.0	—	100.0	50.0	50.0		
	機能形態学特論	講義	20	試験・レポ・出席	95.0	5.0	100.0	75.0	20.0	5.0	
	生化学特論	講義	20	試験・出席	90.0	10.0	100.0	50.0	35.0	15.0	
	栄養学特論	講義	20	試験	100.0	—	100.0	50.0	50.0		
	衛生学特論	講義	20	試験	100.0	—	100.0	95.0		5.0	
	公衆衛生・予防医学特論	講義	20	試験	100.0	—	100.0	60.0	25.0	15.0	
	臨床心理学特論	講義	8	試験・課題・レポ	100.0	—	100.0	62.5		37.5	
	学校保健学特論	講義	20	試験・出席	100.0	—	100.0	100.0			
	養護教育実践学特論	講義	20	試験・出席・レポ	100.0	—	100.0	95.0	5.0		
	微生物学特論	講義	10	試験	95.0	5.0	100.0	10.0	30.0	60.0	
	医科学特別実習	実習	10	試験・出席	100.0	—	100.0	60.0	40.0		
	薬理学特論	講義	20	試験・出席	95.0	5.0	100.0	100.0			
	看護学特論Ⅰ	講義	20	試験・発表評価	100.0	—	100.0	85.0	15.0		
	看護学特論Ⅱ	講義	20	レポ・出席	100.0	—	100.0	90.0	10.0		
	教育思想特論	講義	20	試験・出席・発表	100.0	—	100.0	100.0			
	障害児教育	講義	20	試験・出席・活動参加	100.0	—	100.0	100.0			
	教育方法学特論	講義	10	試験・テスト・模擬授業	100.0	—	100.0	50.0	20.0	30.0	
	教科外教育特論	講義	10	レポ・発表・出席	100.0	—	100.0	100.0			
	比較教育学特論	講義	10	レポ・発表・出席	100.0	—	100.0	50.0	50.0		
生涯教育学特論	講義	10	出席・レポ	100.0	—	100.0	30.0	60.0	10.0		
音楽教育学特別演習	演習	20	試験・出席・発表	95.0	5.0	100.0	70.0	20.0	10.0		
養護共用特別演習	演習	20	試験・出席・レポ	95.0	5.0	100.0	100.0				
修了研究Ⅰ	演習	18	研究成果	100.0	—	100.0	100.0				
修了研究Ⅱ	演習	10	研究成果	100.0	—	100.0	90.0	10.0			
専門関連科目	【専門関連科目】										
	情報処理(応用)研究	講義	20	試験・レポ・出席	100.0	—	100.0	90.0	10.0		
	情報処理演習	演習	20	コンテツ・発表・レポ・出席	100.0	—	100.0	20.0			
教職に関する専門教育科目	【教職に関する専門教育科目】										
	教職特論	講義	20	レポ・発表・出席	100.0	—	100.0	65.0	25.0	10.0	
	教育基礎特論	講義	20	レポ・発表・出席	100.0	—	100.0	100.0			
	教育課程特論	講義	20	試験・出席・発表	100.0	—	100.0	75.0	25.0		
	生徒指導特論	講義	10	試験・レポ	100.0	—	100.0	90.0	10.0		
	教育相談特論	講義	10	試験・レポ	100.0	—	100.0	70.0	20.0	10.0	
	総合特別演習	演習	10	試験・テスト・レポ・出席	100.0	—	100.0	30.0		60.0	10.0
	養護特別実習	実習	11	実習	100.0	—	100.0	100.0			
	教職実践特別演習(養護教諭)	演習	10	試験・出席・発表	100.0	—	100.0	60.0	40.0		

(2)学科ごとの単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状

<子ども健康学科>

履修した科目の単位認定は、各授業科目担当者が平素の出席状況、学習態度、授業期間中の評価及び定期試験などを総合的に判断して評価し、これに合格したものに、その履修科目の所定の単位を与えている。おもな単位認定の方法は、担当教員により、筆記試験、実技試験、レポートなどの方法がとられている。これらはシラバスに明記して実施しており、適切に行われていると判断している。

<専攻科養護教育学専攻>

単位認定の方法は、試験、レポート及び出席状況などを指標として行っている。学生には、配布される各科目のシラバスにおいて、それぞれの成績評価方法が具体的に記されている。少人数制であり、授業内での討議やプレゼンテーションの内容も評価の対象となる。単位認定の方法及び単位の取得状況について問題はないと考える。担当教員による評価の現状については担当教員の判断に任されている。

(3)短期大学全体の単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状

本学では、シラバスの内容などの改善を図り、授業展開や評価方法などの明確化を進めてきた。その中でも特に単位認定（評価方法）を具体的に示すことで、学生にとって単位認定の具体的内容及び方法がわかりやすくなったと判断する。また、今後に向けて、より努力した学生の成果が反映されるものとして、現在の4段階評価（優・良・可・不可）から5段階（秀・優・良・可・不可）評価への改善が検討されている。なお、本学の単位認定の方法などについて現状は良好であると判断するが、学生の卒業後の進路に併せて、指導にも工夫を重ねて取り組んできている。

【授業に対する学生の満足度について】

(1)各授業における学生の満足度調査の概要

全ての授業を対象として、学生の満足度に関する選択・記述形式併用型のアンケートを実施している。調査項目は授業の運営について、授業のわかりやすさと内容及び満足度、学生自身、教員による設問、授業環境についての5つの大項目に対する全13項目と意見・感想、施設・設備についての自由記述欄で構成されている。

結果は、事務局で一括して集計・統計処理し、授業改善の一助となるよう、各授業に関する集計結果と統計的処理に基づく重点改善事項に関する資料を当該授業担当者に手渡している。また集計結果については授業担当者による所見を添えて図書館で公開している。

(2)担当教員の授業終了後の学生満足度に対する配慮についての現状

<子ども健康学科>

学生が授業をどのように評価しているかを知ることは、学生の学習内容理解の程度・学習姿勢を知る意味からも教育改善において重要であり、全授業において「授業フィードバック・アンケート」「中間アンケート」を実施している。教員・学生

相互によって具体的にその問題点を把握することで改善に役立て、一定の成果を上げている。また、教員各個人への調査結果をフィードバックする際に、自分の授業の現状を把握し、教育改善に結びつけることを目指している。そのため社会状況に応じ多様化する学生のニーズに応じた授業形態の工夫に取り組んでいる。

<専攻科養護教育学専攻>

「授業フィードバック・アンケート」の結果については、授業が終了後の内容把握となるものの、その年度の授業の問題点や課題が明らかになり、次年度の授業内容の改善に結びついていると考える。平成 23（2011）年度から授業期間の中間で、授業について各教員が任意な形式ではあるが、中間アンケートを行っている。このことにより、進行している授業の状況について可能な限りリアルタイムに近い形で学生の意識が把握でき、学生の授業満足度を改善することが可能になっていると思われる。

(3)短期大学全体の授業に対する学生満足度の現状

学生の満足度及びそれへの配慮等の現状については、短期大学全体としておおむね良好と判断する。「授業フィードバック・アンケート」の実施と公開は既に定着している。ただし、このアンケートの一層効果的な実施に向けて、質問項目の改善やアンケート結果の取り扱い（学生の評価に対する教員のフィードバック等）等、今後検討すべき課題もある。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1)過去3ヶ年(平成20年度～22年度)の退学、休学、留年等の数

養護教育科の退学者等一覧表

(平成23年3月31日現在)

区分	平成20年度入学	平成21年度入学	平成22年度入学	備考
入学者数	52	64	59	
うち退学者数	2 (3.8%)	2 (3.1%)	0 (0.0%)	
うち休学者数	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
休学者の内の復学者数	—	—	—	
うち留年者数	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	
卒業生数	50 (96.2%)	62 (96.9%)	58 (96.3%)	

初等教育科の退学者等一覧表

(平成23年3月31日現在)

区分	平成20年度入学	平成21年度入学	平成22年度入学	備考
入学者数	75	70	93	
うち退学者数	2 (2.7%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	
うち休学者数	1 (1.3%)	1 (1.4%)	1 (1.1%)	
休学者の内の復学者数	—	—	—	
うち留年者数	1 (1.3%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	
卒業生数	72 (96.0%)	68 (97.1%)	91 (97.8%)	

専攻科養護教育学専攻の退学者等一覧表

(平成23年3月31日現在)

区分	平成20年度入学	平成21年度入学	平成22年度入学	備考
入学者数	13	20	22	
うち退学者数	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	
うち休学者数	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
休学者の内の復学者数	—	—	—	
うち留年者数	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	
卒業生数	13 (0.0%)	20 (0.0%)	20 (90.9%)	

(2)退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者(復学者を含む)及び留年者に対する指導(ケア)の現状

<養護教育科>

退学者、留年者は、若干いるが非常に少ないと認識している。また、退学の理由としては進路変更や健康の理由があげられる。退学者・留年者への指導は、クラス担任制を中心としたきめ細やかな日常生活指導を行っている。その指導の方針や経緯などについては学科会議において、クラス担任より報告し、学科の教員全体で共有し支援している。

<初等教育科>

退学・休学の理由としては、勉学意欲の減退・喪失、単位不足などの学業不振である。退学者・休学者は授業の欠席回数が増えて不登校になるケースが多い。本学科では、クラス担任によるきめ細かい生活指導を行っている。出席不良者に対してはクラス担任が早期に対応し、保護者と本人の面談を行っている。さらに、退学者、休学者については、学科内の会議においてクラス担任より経過など報告し、学科全体の教員で充分検討を行っている。

<子ども健康学科>

退学者は若干いるが、昨今の大学事情全般に照らし合わせるならば少ないものと

認識している。退学の理由としては、進路変更のほか、時代の景気を反映した経済的な理由、身体的な理由が主である。なお、併せて、就学意欲の低下を招かないために、欠席回数やレポート課題の提出状況など、クラス担任が中心となって学生の生活指導を行っている。出席不良者や成績不良者に対しては、クラス担任が早期に対応し、きめ細やかな指導を重ね、必要があれば保護者との面談を行っている。さらに、学科内の会議において、クラス担任より経過など報告し、学科教員全体で十分検討を行っている。

＜専攻科養護教育学専攻＞

目的意識が明確な学生が多く、少人数制で日頃よりきめ細やかな指導を行っているため退学者、休学者および留年者は少ない。退学者1名の退学理由は、教員採用試験合格によるものであり、留年者1名は、病気療養によるものである。

(3)退学、休学、留年等の現状

＜子ども健康学科＞

本学科の学生の退学については、若干名の学生が出ている。その理由としては主として進路変更が多い。その原因としては、本人の進路意識・目的意識の不明確さ、そして経済的問題などがあげられる。そのため学生の側の主因だけでなく、学生生活を保障する問題でもあると考える必要がある。このような点から、学生相談、学習支援、経済的支援なども含めた総合的な学生支援に取り組む必要があると考える。

このためには、本学科を中心として学生支援にかかわる関係各部署との日頃からの連携を深めていくことが求められている。また、退学に至った学生に対する支援も重要である。本学科では、担任、ゼミの教員を中心に担当の学生への支援を行っているが、今後さらにきめ細やかな支援の充実を図る必要がある。

＜専攻科養護教育学専攻＞

目的意識が明確な学生が多く、少人数制で日頃よりきめ細やかな指導を行っており、今後もさらに個々の学生の背景を踏まえ支援の充実を図る。

(4)短期大学全体の現状

＜子ども健康学科＞

子ども健康学科として、退学者、休学者は若干名いるが、クラス担任制を中心とした日常のきめ細かい学生指導の成果であると考えている。しかし、近年の社会的動向と同期して、進路変更と経済的問題による退学者等が存在する。この点について、これまで以上に入試のあり方、入学初期のオリエンテーションの強化、また奨学生制度等を検討していく必要がある。

また、入試形態の多様化に伴い、入学生の高校卒業時までの学習形態も多様になり、入学と同時に、従来のように既得の知識・学習方法において等質化された学生集団を期待することが困難な状況にある。したがって、入学生が高校段階までに修得している後期中等教育から、学科で実施する高等教育へと円滑に移行するために、

入学当初から、既得の知識・学習方法、及び学生個々の学力に関する情報を把握することが重要である。そして、学生が、実りある実習を経験できるためには、自ら学ぶ姿勢を身につけることが欠かせないことから、学生が学習意欲を喚起できるよう上級生の学習成果の発表会にも参加するなど多面的な指導を工夫してきている。

また、学生相談では、クラス担任や学生支援課の学生相談窓口等を設けたり、専門のカウンセラーによって学生生活での悩みや不安を解消するなどの対応をおこなっている。さらに、さまざまなハラスメントの防止については、ハラスメント相談員によって学生の苦情に対応している。

<専攻科養護教育学専攻>

専攻科として、退学者は1名いるが、教員採用試験合格によるもので、進路決定という発展的な理由による。養護教育学専攻は養護教諭一種免許取得が可能であることから、大半の学生が養護教諭を志向している。しかし、公立学校の採用は依然として難しく、臨時採用の割合が多い。これまで私立学校に採用された学生は高い評価を受けている。子ども健康学専攻となる平成25（2013）年度以降は、公立学校の教員採用試験対策の充実とともに、私立学校への就職率、医療・福祉領域へのより高度な専門職としての就職率を高めて行けるように、多様なキャリアを追求する科目「キャリアデザイン特別演習Ⅰ」「キャリアデザイン特別演習Ⅱ」を予定している。